

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

清藤真樹

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査を漁海況情報として、漁業関係者に情報提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、前漁期の状況、水産庁及び独立行政法人水産総合研究センターは発表した日本海スルメイカ長期漁況予報等の漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）における月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結 果

1. 学習会の開催

平成25年4月26日にむつ市、5月27日に東通村（連合研究会）、6月3日に泊漁協において、それぞれ小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、前年の漁況、（独）水研センターの調査結果、本県の漁況について説明した。

4月25日には八戸市で中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果からの前漁期の状況、資源の状況等を説明した。

2. 漁獲動向調査

平成25年5月から平成26年1月までの近海スルメイカ漁獲量は、日本海で1,223トン（前年比67%、近5年平均比98%）、津軽海峡は883トン（前年比93%、近5年平均比69%）、太平洋で3,463トン（前年比88%、近5年平均比64%）となり、合計5,560トン（前年比83%、近5年平均比70%）であった。

また、平成25年5月から平成26年3月の八戸港における船凍スルメイカの漁獲量は12,431トン（前年比82%、近5年平均比75%）であった。